

ピークを過ぎた長期滞在先、マレーシア

三木 敏 夫

長期滞在から医療観光へ

八年連続で長期滞在先 No.1 に輝いたマレーシアですが、そのピークも峠を越したのではないかと感じられます。「中所得国の罫」に陥っていると揶揄されますが、高所得国入りに王手をかけ、一人当たり GDP も一千万ドル（二〇一三年）を上回り、二〇二〇年には一千万七〇〇〇ドルになるのではないかと予測され、高所得国入り、先進国入りも現実的なものとなっています。かつて戦後ハワイやオーストラリアなどの先進国でロングステイすることに憧れたのが団塊の世代でしたが、経済的理由で東南アジア諸国へとシフトしてきた経緯があります。日本人にとって人気がある長期滞在先（ロングステイ財団二〇一四年）はマレーシアに次いでタイ、ハワイ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、インドネシアと続きベスト十位の中に東南アジア諸国が過半数を占めています。

マレーシアは適度な先進性と適度な後進性（拙著『マレーシア新時代』創成社）が感じられ、受け取る年金の範囲内で暮らせ、中年の間で人気になってきましたが、現在は様変わりしています。一〇年前では住宅費を

含めた生活費は二〇万程度で十分でしたが、現在は三〇万円ぐらいかかるようになりました。

マレーシアの友人がちょっと買い物をする、五〇リング札がアツという間に無くなることばしていました。またマレーシア政府の長期滞在政策のターゲットも年金生活者から、裕福な層を狙ったものへと変化してきています。政策を始めたころは外資導入の一環として進めてきましたが、現在は医療観光を振興するなど富裕層をターゲットとする傾向が顕著になってきています。マレーシアには世界でも珍しく政府が管理・運営するマレーシア医療観光協会（MHTC）が設立され、七十二の病院が登録され、年間五〇万人以上が医療目的で訪問しています。インドネシア人、インド人に次いで日本人は第三位の訪問人数でした。二〇一〇年一万五千人、二〇一二年一万七千人が医療観光で滞在し、年々訪問者数は増加傾向にあります。

ターゲットは富裕層と不動産投資

長期滞在先として人気のマレーシアの変化は日本で開催される長期滞在セミナーにおいて、不動産投資などを勧めるものが多

くなってきていることに表れます。一〇年前には九〇〇万円も出せばブル付きのコンドミニアムを購入することが可能でしたが、二〇一四年から外国人が購入できる不動産は五〇万リング（約一五〇〇万円）から一〇〇万リング（約三〇〇〇万円）に引き上げられました。また家賃もかつては五万円前後でしたが、クアラルンプールなどの都市部の 2LDK では九万円から十五万円程度になっており、年金では賄えない状態です。賃貸すると二年契約が原則で、途中解約すると二か月分の保証金は戻りません。一―二か月の短期賃貸だと家賃は高くなることは覚悟しなければいけません。

しかし、「退職後の生活のしやすさ二〇一四年指数」（インターナショナル・リビング社）リストによるとマレーシアは、エクアドル、パナマ、メキシコに次いで第四位となっており、人気要因の第一位は温暖であり、月当たり生活費が一五〇〇ドル程度ですむことをあげています。評価が分かれたことは、長期滞在先のピークを越えたことを物語っているといえるでしょう。同リストにはアジアからはタイ、フィリピン、ベトナムなどがあげられています。

中国人に次ぐ第二位の日本人

日本人にとってマレーシアが人気があるように、一〇年定住ビザ MM2H を始めた二〇〇二年以来、ビザ申請者数は中国人が二二・二％で第一位、次いで日本人一三・一％、バンングラデシユ人一一・三％、英国、北アイランド、イラン、シンガポール台湾と続き、日本人にとってマレーシアが長期滞在先人気 No.1 を裏付ける結果となっています。二〇一四年四月現在申請者総数二万五五〇〇

人、二〇一二年以降、中国人のビザ申請者が急増していることが大きな特徴です。申請をする理由はそれぞれの国情を反映したのもとなつていきます。英国人の申請が多いのは英国がかつて旧宗主国であったことと、日本人と同様に温暖な国での年金生活者が多いのです。バングラデシユ人が第三位であるのは外国人労働者としてマレーシアに大勢やってくるのと、宗教が同じイスラムであるため容易にブミプトラになれることが大きく関係しています。イラン人は国内のイスラムの戒律が政治から日常生活まで厳しく、民主的でないことが大きく原因して、テロ活動の危険性が低く、戒律が厳しくないイスラムの国であるマレーシアにやってくるようです。筆者はクラン港に向かう電車(KTM)の車内でイラン人家族から話しかけられたことがあります。彼らはイランのイスラム政治体制を嫌悪してマレーシアで生活しているとのことでした。

MM2H 五〇歳以上の取得条件

下記は五〇歳以上の長期滞在用 MM2H (二〇年定住) ビザ取得条件の概要です。取得経費は年金生活者にとって非現実的な金額となつてきていることがわかります。

- 一. 35万リンギ(約一〇〇万円)の資産証明
 - ・ 配偶者と同時に申請する場合は配偶者名義の資産証明も加算可能。
 - ・ 不動産は資産証明として認められない。
- 二. 月額1万リンギ(手取りで約三二万円)の収入証明が必要。

・ 収入には年金、給与、役員報酬、定期的に支払われる投資利子、家賃収入などを含み、年金には基礎年金の他に厚生年金と企業年金が含まれます。

- 三. 15万リンギ(約五〇〇万円)をマレーシア国内の銀行に定期預金すること。
 - ・ 定期預金は資産証明35万リンギのうちから流用することができます。
 - ・ 二年目以降は医療費、家の購入、同行した子供の教育費、新車購入の目的に限り、5万リンギを引き出す事が可能ですが、マレーシア観光局への申請が必要となります。

月収三十二万円を取り上げても一〇年定住ビザの取得条件が、年金生活者にとってハードルが高いことが理解できます。

「適度な先進性と適度な後進性」は健在

MM2Hの取得が難しいことがわかりましたが、取得経費を必要としない九〇日滞在可能な観光ビザは空港で取得できるので、「長期滞在」ではなく「短期(二週間から一カ月)・中期滞在(三か月)」をすることを勧めます。ただ九〇日以内の滞在ではTV・マスコミが報道している「超お得の家賃・生活費」などは夢物語です。タイやマレーシアの東アジアの国で、年金の範囲内で「暖かく、のんびり」と第二の人生を過ごす計画は、一〇年以上前でしたら可能でしたがこうした時代は終焉しました。日本人が生活できる許容範囲で、物価が日本の二分の一、三分の一の国を世界で見つけるのは困難でしょう。マレーシア長期滞在セミナーは日本経済の格差拡大を反映して、中高年の長期滞在から、医療観光、不動産投資と日本人の英語劣等感を刺激して、子供と一緒に移住し英語教育を煽るものへと変わって

きています。韓国人母子が父親をソウルに残して語学留学している話がよく聞きます。長期滞在のターゲットは「資金力のある資産家層」へ確実に移ってきています。

また、クアラルンプールは東京と同じ大都会であること、日本人に人気のペナン島の海岸は透き通った青い海ではなく、キャメロンハイランドでの生活には暖房器具が必要であること、医療機関があるイポーに行くには時間がかかりすぎ、日本の冬の寒さをしのぐ避寒地として最適なこと、食は種類が少なく味は単調(辛い)なことなど、これまで見えてこなかったものがよく見えるようになりました。またアベノミクスによる円安も影響しています。

個人的体験で、六〇歳代前半と後半に退職するのでは個人差がありますが、見える景色と人間関係の在り方が変化するようです。特に老後の生活は経済力と地域との関わりが大きく影響します。まだ体力、気力と経済力がある六〇歳代前半なら、「行きたい時に」、「行きたい国に」、「住みたい時間だけ」暮らす、「短期・中期滞在」で「適度な先進性と適度な後進性」をまだまだ楽しめるのがマレーシアです。しかしゴルフを趣味としないう滞り者の一日の過ごし方は、アザン(イスラムのお祈りの開始の呼びかけ)が聞こえてくるのを除き、日本で中高年者が送る生活とあまり変わりません。現地社会との交流もありますが、ほとんどが日本人社会(村)で過ごすこととなります。赤道直下でのゴルフは体力を著しく消耗します。人生、青い鳥はどこに行っても見つからない、絶えず探し続けるのが人生ではないでしょうか。

(みき としお・中小企業診断士)